

地球環境、こどもの成育環境等における

環境デザインの研究、設計、教育、社会活動に対する貢献

名誉会員 仙 田 満 君

仙田満君は、1964年に東京工業大学建築学科において谷口吉郎に、卒業後、菊竹清訓に師事し、1968年に独立して環境デザイン研究所を創設し、約50年にわたり建築設計活動を行うと共に、1984年に琉球大学教授、続いて名古屋工業大学教授、東京工業大学教授を務め、2005年に東京工業大学名誉教授の称号を授与された後にも、愛知産業大学教授、放送大学教授として研究・教育を続けてきた。同君は、個々の建築設計を超えた環境デザイン領域を確立しただけでなく、こどもの成育環境、地球環境と建築に関わる領域において多くの業績を残し、建築に関する学術・技術・芸術の発展と向上に大きく貢献している。

同君は、建築・造園・都市を一貫して考えることの重要性を常に主張し、こどもの環境デザイン、ユニバーサルデザイン、地球環境デザインなど、環境デザインの領域を確立した。これらの成果が認められ1978年には毎日デザイン賞を受賞し、環境デザインの領域が世に広く認められる契機となった。この40年間には、多くの大学において、建築・造園・インテリア・プロダクト等を融合した環境デザインの領域の学科が創立されたが、同君は多くの著書、建築作品を通して、この分野の開拓、研究、設計、教育に貢献してきた。

こどもの成育環境、なかでもあそび環境のデザインと研究において、国際的に大きく評価されているが、国内でも1996年に茨城県自然博物館の設計で日本造園学会作品賞を、1997年に愛知県児童総合センターの設計で日本建築学会賞作品賞を受賞し、研究分野では日本建築学会、日本造園学会、日本都市計画学会などで多くの論文を発表し、日本建築学会霞が関ビル記念賞を受賞し、著書「子どものあそび環境」は国際交通安全学会賞を受賞している。また近年では日本学術会議において分野横断的なこどもの成育環境分科会をつくり、4つの提言を政府に提出している。

日本建築学会の活動では主に地球環境委員会に所属し、2001年4月から5月、2003年4月から2005年3月に委員長を務め、地球環境建築憲章の起草委員長として建築系団体の五会の意見をまとめ、これを制定した。これに関係して日本建築学会より地球環境建築シリーズ4冊を企画し、日本の地球環境に関するデザインガイドラインとして、建築界全体に多大な貢献をした。また地球環境に配慮した建築を数多く設計し、日本では京都アクアリーナが環境建築賞を、また中国・佛山市岭南明珠体育館は亜熱帯の環境建築としてIOC/IAKS 金賞、ARCASIA 金賞を受賞している。

2001年6月から2003年5月には日本建築学会会長を務め、建築博物館を設立し、社会貢献組織として、司法支援建築会議、まちづくり支援建築会議の構想、設立に参画した。2005年より最高裁判所の裁判の迅速化に係る検証に関する検討会委員として建築紛争の短縮化のための具体的な提案を行っている。また、日本建築家協会会長として、建築士法、基準法改正について、契約書の重要性やインターンシップ制度継続教育を定着させることに貢献した。

以上に述べたように、同君の活動は幅広く、わが国の環境デザイン分野のパイオニアとして、研究、設計、教育、社会活動等と多面的に活動し、多くの業績を残し、建築に関する学術・技術・芸術の発展と向上に大きく貢献している。

よって、同君の功績に対して、ここに日本建築学会大賞を贈るものである。